

体験的に学ぶ。

内 容：①「出会いのワーク」→2人が反対方向から歩いて来て、出会うポイントで、無視したり、見つめあったり、挨拶したりと接触の種類をかえ、度合いを深めていきながら、気づいたことをフィードバックしあう。

②「自己開示のワーク」→自分自身の行動、価値観、事実、感情などを簡単な言葉で表現するかたちでの自己開示を行い、そのプロセスでおこったことをふりかえる。

小 講 義：ジョハリの心の4つの窓について

7 タイトル：他者につながる（3）

目 的：グループの中で作業するとき起こることを体験する。特に、課題達成に向けての合意を形成する際の様々な要因について学ぶ。

内 容：①「名画鑑賞」→指示に従って、一枚の紙にメンバーが一人ずつ線描きを行い、できあがったもののタイトルを各自考えた後、全員で相談してグループとしてのタイトルを決める。かんたんな演習であり、これは後のコンセンサス実習のウォーミングアップおよび雰囲気作りとしての位置付けとなる。

②「人生の価値」→健康、愛、正義、富など、人生において価値あるものと考えられている8項目について、個人で順位付を行った後に、グループとしての順位を決めていく典型的なコンセンサス実習。グループで決めていく際には、全員が十分に納得がいくまで話し合い、多数決や平均値を出す、取引をするなどの葛藤を避けるための方法を用いないことなど事前に留意点

を示し、演習中はインストラクターが巡回し、必要に応じて介入する。

小 講 義：集団における意志決定について

8 タイトル：他者につながる（4）

目 的：グループとしての課題を達成する時のグループの発展過程、協力過程および自分のそこへのかかわりのあり方を体験的に学ぶ。特に、非言語的に行うという負荷がかかった場合にメンバー間にどのような影響があるのかに気づく。

内 容：「協力ゲーム」→グループ毎に紙片セットを渡し、メンバーが同じ枚数の紙片を持つ。グループの中で紙片を交換しあって、自分の前に全員が同じ図形を作り上げる。この時、無言で行うことと「他者に紙片を渡すことはできるが、ほしい紙片を要求することはできない」という条件をつけて行い、演習のプロセスを通じての自分の気持ち後動きやかかわりをふりかえる。

小 講 義：グループ内での影響関係について

9 タイトル：かかわりの体験（1）

目 的：日常生活の中で、自分がどのように五感を使って情報を取り込んでいるのかに気づく。さらにそれは、他者とのかかわりの中でどのように使われていて、どう影響しているのか学ぶ。

内 容：この回は、感性、感覚がテーマとなるので、こういった刺激を受けやすいよう公園などの屋外で実施する。

①「ものと出会う」→目を閉じて、手の平にのせられたもの（紙ナプキンのおひねりの中に、プチトマト、マシュマロ、チョコ